

凡 例

記号の規約

- ・ 計数のない場合 「－」
- ・ 計数不明の場合 「・・・」
- ・ 統計項目のありえない場合 「・」
- ・ 比率が微小（0.05 未満）の場合 「0.0」
- ・ 計数が減少の場合 「－（マイナス）」

人口動態調査

1 調査の目的

人口動態調査は、我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象及び客体

「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象としているが、本概況は、令和6年1年間に日本において発生した日本人の事象を客体としている。

3 調査の期間

令和6年1月1日～令和6年12月31日

4 用語の説明

- ・ 自然増加 出生数から死亡数を減じたもの
- ・ 乳児死亡 生後1年未満の死亡
- ・ 新生児死亡 生後4週（28日）未満の死亡
- ・ 早期新生児死亡 生後1週（7日）未満の死亡
- ・ 死産 妊娠満12週以後の死児の出産
- ・ 周産期死亡 妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの
- ・ 妊産婦死亡 妊娠中又は妊娠終了後満42日未満の女性の死亡で、妊娠の期間及び部位には関係しないが、妊娠もしくはその管理に関連した又はそれらによって悪化したすべての原因によるもの

5 比率の解説

(1) 出生・死亡・婚姻・離婚率

$$= \frac{\text{年間事件数}}{\text{10月1日現在人口}} \times 1,000$$

(2) 死産率（自然死産率・人工死産率）

$$= \frac{\text{年間の死産（自然・人工）数}}{\text{年間の出産（出生＋死産）数}} \times 1,000$$

(3) 乳児死亡率（新生児死亡率・早期新生児死亡率）

$$= \frac{\text{年間の乳児（新生児・早期新生児）死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

(4) 周産期死亡率

$$= \frac{\text{年間妊娠満22週以後の死産数} + \text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数} + \text{年間妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

(5) 自然増加率

$$= \frac{\text{年間出生数} - \text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在人口}} \times 1,000$$

(6) 合計特殊出生率

$$= \frac{\text{年間の母の年齢別出生数}}{\text{10月1日現在年齢別女性人口}} \text{の15歳～49歳までの合計}$$

(7) 死因別死亡率

$$= \frac{\text{年間死因別死亡数}}{\text{10月1日現在人口}} \times 100,000$$

(8) 平均体重

$$= \frac{\text{出生時の体重の総和}}{\text{出生数}}$$

※ 体重の総和、出生数には体重不詳のものを含まない。

(9) 平均初婚（再婚）年齢

$$= \frac{\text{夫・妻の届出時の月齢の総和}}{\text{年間婚姻数}}$$

6 比率に用いた基礎人口

市町村、保健所分については本県統計課発表の「毎月推計人口（2024年10月1日現在）」、全国、都道府県分については総務省統計局発表の「推計人口（2024年10月1日現在）」の日本人人口を用いた。

（備考：国勢調査年は、国勢調査結果による補間補正人口を用いる。）

7 死因分類について

「e-stat 政府統計の総合窓口」に掲載されている分類表を使用